



しかはま自然観察会

のらえもん

『 人も 自然も みんな友だち 』

2024 年度

No. 13

2024. 12. 21

第13回活動 しめ縄づくり 15回目

今年をふり返り、来年に希望をこめ、
自分の手で、しめ縄をつくりました。
希望は、水引・松・万両の飾り方に
表れていましたね。

日本だけではなく、世界中がおだやかな日々が
つづくことの願いをこめました。

1, 日 時 : 2024年12月21日 (土) 12:30~14:30

2, 天 気 : おだやかな晴れ

3, 場 所 : いきいき館多目的ホール

4, 参加者 : 総数 28	内訳	大人	13
		専門	1
		小学	8
		幼児	2
		スタッフ	4

5, 活動の様子

毎年一回だけの活動。

でも、これをしないと「なんとなく気持ちが落ち着かない」といって、たくさんのお子様と保護者の方々が参加してくれました。

しめ縄の藁(わら)は、宅間さんが育ててくれました。

背が高くなる品種です。田植えは同じようにします。が、穂が出てきて花が咲く前に刈り取ります。これを「青田刈り」といいます。実る前ですから、稲の茎は青々しています。それを刈り取り、日の当たらない場所に保管しておきます。この「青さ」が大事なんですね。「いつまでも若々しく」という願いが込められています。

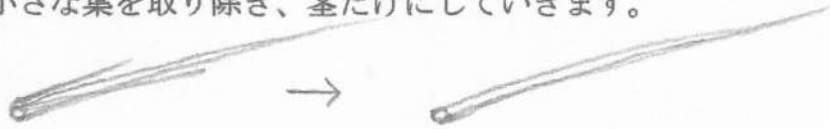
師走に入る頃、その青々したまだ臭いをかもす藁を、宅間さんから送ってもらいます。

ここからは、のらえもんの仕事です。

しめ縄のためのワラ束を、大人用に15本ぐらい、子どもように13本ぐらい、茎だけを束にして、みんなに届けるのです。

そのための作業手順として、

①藁についている小さな葉を取り除き、茎だけにしていきます。



②茎だけを集めて、13～15本の束を作り、輪ゴムで止めます。



③その束を、夕方、庭に並べて夜露にあてます。

湿らせる事が、重要です。

④翌日の朝、湿ったワラ束を、木槌で打ち、ワラ束の茎を柔らかくします。

茎を柔らかくしておかないと、茎が折れたり、なうことが難しくなります。

⑤柔らかくしたワラ束は、ビニールで包み、湿気が逃げないようにします。

この状態で、会場まで持って行きます。

我孫子から持って行くので、自転車で駅まで運び、電車を乗り継ぎ、バスに乗り、最後は徒歩で会場に持って行きます。

大きい荷物になります。その上、リュックを背中に担ぎ、もう一つの手にはしめ縄の飾りをいれたバックを持っています。

「そんなにたくさんの荷物、嫌だなー」とは少しも思いません。「のらえもんのみんなが楽しみに待って入る」と思うと、かえって誇らしい気持ちになります。

いよいよしめ縄づくりの始まりです。

⑥ワラ束を二つに分けて、縄をないます。

神事なので、左よりにします。右手を下にし、左手でワラをつかんで転がすようにしていきます。ここが一番難しいところですね。

そこで、足の親指でワラ束の根元をしっかりと押さえつけ、右手に持った半分のワラ束を時計回りに3回ほど回し、左のワラ束の根元の下に持って行き、その左のワラ束を右側にグイと引っ張ってきます。この動作を繰り返して縄をなう事ができます。途中で、右手の腹の上に乗せてワラが転がるようでしたら、そのまま続けてみましょう。

⑦ワラをなえれば、後は稲穂・御幣・水引・松・赤い実などのかざりをつけていけば完成です。

1年に1回の挑戦ですが、だんだんできるようになります。

のらえもんの皆様にすばらしい年が訪れることを、心より願っています。

6, ふり返りの感想

- 今日、ここで、しめなわをつくって、
たのしかったです。
たのしいな しめなわづくり またやろう

くりしま幼稚園年中

父

- きょうはじめて つくりました。
しめなわを
はじめてつくりました。

栗島小1年

- くるくるするところが むずかしい。
かざりするの たのしい。

鹿浜五色桜小1年

- なわをよるのが
むずかしかった。
かざりを いっぱいつけた。

伊興小2年

- かざりはむずかしかったけれど、
きれいなかざりが作れてたのしかったです。
あと、もういっぱい、やってみたいです。
がんばりたいと思います。

鹿浜五色桜小2年

- しめなわはむずかしかったけど、
ほかは上手にできてうれしい。

かしわざき小2年

- 楽しい。
なんか、あのなわにするやつが、大変だった。
たのしいね しめなわ作り まじ楽しい

皿沼小4年

- けっこう、いい感じにできた。
らいねんも、いいとしになるといいとおもった。
たのしかった。
しめなわの つくるてのひら まっかっか

加平小6年

- 子は育ち一人参加のお母さん家族の願いしめ縄づくり
○ お父さんお母さんも参加してみんなちがってしめ縄飾り
○ のらえもんしめ縄づくりに願を込め悪戦苦闘最後は笑顔

スタッフ 古高 利男